

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年2月25日

No.10

これまでの労苦に報い、将来に責任を持つためベア実施で応えよ！

～2016JR総連春闘 第2回賃上げ交渉報告～

中央本部は、本日10時00分より第2回賃上げ交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 1月は景気の減速感が見られ、厳しい収入状況にある。2月については多少改善しているが、日々の輸送状況は良くても前年並みの状況である。
2. 今年度の収入落着き見込みは対10月期計画△28億円減の1116億円となる見込みである。
3. 今年度計画した営業施策による収入効果は年間で81億円を見込んでいたが、現時点まだその目標を達成できていない。年度末に向けて施策のフォローを行ない収入確保に努める。

【関連事業部門】

1. 平成27年度落ち着き見込みは、鉄道補完事業で若干の減収となるが、その他の各事業で挽回することによって1月期改定で設定した目標を若干上回る見込みである。
2. 来年度は開発可能用地の減少などにより、非常に厳しい状況である。

【組合の主張】

1. 我々はそれぞれの職場で非常に厳しい要員需給の中で安全確保・安定輸送に向け最大限の努力をしている。一方で頻発する輸送障害や欠車・コンテナ不足が発生している。健全な企業運営には「人・物・金」への投資が必要不可欠である。
2. 年度初計画はおろか10月期改定で立てた収入計画ですら未達となっている。その中で対前年比で見れば収入はプラスであり、組合員の努力の結果は明確に表れている。経営陣はこの事実を認識すること。
3. トータルの収入動向を見る限り、支払能力は十分にあることは明確である。これまでの組合員の努力に報いるとともに優秀な人材を確保をすすめるためにも初任給の引き上げなど賃金全体の底上げを図り、貨物会社の将来展望について責任を持って示すこと。

【会社の回答】

1. この間の会社施策に対して協力頂いていることは認識している。人材によって会社が支えられていることは事実であり、会社の将来像をどう示すかは会社の責務である。会社の基礎体力部分へ投資せよ！という組合の主張については改めて経営トップに伝える。
2. 厳しい状況の中ではあるが、これまで進めてきた営業施策を継続して実施し、収入確保・拡大につなげていく。指摘頂いた輸送障害対策などについては確認の上、別途回答する。
3. 会社の現状は本日明らかにしたとおりであるが、引き続き真摯に議論を行っていく。

最後に中央本部は、「経営陣の収入未達に対する危機感が全く感じられない。計画未達は極めて経営の責任であり、収入未達の責任を組合員に転嫁することは認められない。会社として計画の達成に向けて責任を果たすこと。」と主張して交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は3月4日（金曜日）です。